

2024年(第97回)全国安全週間・準備期間実施計画

(2024年夏季災害防止活動計画)

I. 活動の趣旨

安全意識の高揚と安全活動の定着を目的とした『全国安全週間』は、今年で97回目となります。

当北九州技術センター安全衛生協力会では、本年前半は休業災害0件、不休業災害0件、軽処置8件が発生しており、災害の内容(型)は「目に異物」3件、「足を滑らせ転倒」1件、「足場の隙間に足を落とした」1件、「注射針が指に刺さる」1件です。主原因は危険に対する軽視による行動、一つひとつの作業における設備・周辺環境の安全確認・点検不足があげられます。これらの対策として「危険に対する一人ひとりの意識を高めること」「相互の声掛けが重要であること」の再確認が必要です。更に新型コロナウイルスの感染や熱中症が危惧される状況下であり、一人ひとりの自己健康管理の徹底も求められます。本年は大きな組織改正がありましたが、本週間を契機に直協関係者が一体となり、もう一段高い安全管理を推進し、年後半の『災害ゼロ』達成を目指していきましょう。

北九州技術センター殿

II. 活動期間 : 2024年 6月1日～7月31日 (6月1日～7月7日)

III. スローガン : 『危険に気付くあなたが目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全』

IV. 重点実施事項

[期間重点管理災害] : 熱中症、感電、墜落・転落、飛来・落下

1. 「活動趣旨の浸透と周知徹底」

(1) 社長メッセージの配付	6月3日(月)
(2) 全国安全週間活動*啓発声掛け	6月3日(月)8:15～
(3) 夏季安全祈願祭(高見神社)	6月6日(木)8:00～
(4) 安全大会(S館食堂)	6月6日(木)9:30～

2. 災害防止重点活動事項

《1》類似災害防止対策を踏まえた工事計画の立案・実施

(1) 日々の作業や工事計画に過去の類似災害防止対策の反映

1) 工事計画時は過去災害データベース(SAGUR)、災害風化防止リスト等を基にリスク抽出をもれなく行い、類似災害防止対策を計画する

2) 日々の作業における類似災害防止対策として次を実施する

- ① 新規入構教育、安全大会、節目のKY等を通じ、過去災害データベース(SAGUR)、厚生労働省/職場のあんぜんサイト/労働災害事例等を活用し、不安全行動防止・類似災害防止に向けた啓発を実施する。
「作業開始前の危険予知活動の重要性、実施の徹底」を指導し、『一人KY』活動の周知・浸透を図り、身の安全を最優先にした作業を徹底する。(移動中しながら作業禁止、不安定な姿勢排除、作業場の周囲確認の習慣化) 予定外作業が発生した場合、「作業計画変更の報告ルール」に従った対応を周知し、作業開始前の危険予知活動を徹底させ、作業手順通りに実施しているか確認する。
- ② 日々の朝礼、TBM等で過去災害を周知し、類似災害防止対策の確実な実施を指導する
- ③ 指差確認(ひと呼吸運動・AAO(慌てず焦らず落ち着いて)活動など)を全員に周知徹底し、リスク(危険)を意識させる

- ④ IKF(いい関係深め合い)活動を展開し、仲間意識をベースとした安全文化を醸成し不安全行動・ヒューマンエラーを防止に対するPDCAを展開する

(2) 管理者は安全パトロールで、類似災害防止対策を反映した工事計画と作業状態を確認

1) 協力会社の現場管理者は、声掛け・対話型パトロールを実施する

- ① 工事計画、作業手順に沿っているか、職長とPDCAを意識した対話を通し実行管理を行う
- ② 安全行動に対する誉めの声掛けを意識する(しっかり安全帯を掛けてくれているね!等)
- ③ 過去災害事例に基づいたチェックリスト等を用い、実行状況を確認する
- ④ 不安全行動を見逃さない、黙認しない(不安全行動を現認したその場で丁寧な指導を心掛ける)、放置させない(作業床の開口部・端部の養生、作業通路・足場からの墜落防止処置など)
- ⑤ 3H(初めて、変更、久しぶり)作業時には重点的にパトロールを実施する

(3) 過去災害データベース(SAGUR)の活用

- 1) 不安全行動チェックリストの活用を推進し、過去災害データベース(SAGUR)、過去災害再現動画、デジタルサイネージ向け動画を用いた教育・啓発活動を展開する

《2》危険源に対する安全対策と現場作業環境・安全作業状況の確認

(1) 墜落・転落防止措置のない開口部の撲滅、安全設備・装置(足場・親綱など)の確実な設置

1) 工事計画に際しては、現地諸状況を十分に考慮して抜けのないリスクアセスメントを実施し立案する

- ① 高所作業の計画においては、漏れなく墜落・転落防止対策(囲い、手摺・中さん・幅木、覆い、防網、墜落制止用器具取付設備等)、飛来・落下防止対策(立入禁止措置、幅木、落下防止ネット、養生シート等)を計画することを指導する。墜落災害防止対策については、墜落防止用安全ネット取付用金物など設計段階でも積極的に予め対策を検討する
- ② 標準規格(枠組み・単管)・標準図から逸脱する足場は、必要に応じて、構造図や構造計算書を含む詳細計画を確実に立て安全性を確認する

本足場の原則使用、改正「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく手すり先行工法の採用を図る

- 2) 足場設置時、改造時および作業状況の変化時に現地・現物で確認した上で、適応した墜落防止対策を行う
- 3) 足場点検は確実に実施する。特に、墜落防止対策を重点的にチェックする
- 4) 高所作業では作業状況に応じ、最適な墜落防止措置を取る。(例: 柵、囲い、水平ネットの設置)
- 5) 墜落制止用器具使用や親綱等の基本ルールは新規入場者教育時に指導すると共に、ポスター、デジタルサイネージ等で視覚的に啓発し、現場巡視では見逃さず厳格に指導する

(2) 可動物(重機・回転体など)との接触防止措置状況(立入禁止、保護カバーなど)の確認

- 1) 重機作業においては、作業計画を作成させ、有資格者の配置、歩車分離または誘導員配置を確実に行うことを指導する
- 2) 可動物使用時は、可動物・回転部への接触・可動範囲への立ち入りが無いように作業計画を行う。どうしても可動範囲に立ち入る必要がある場合は、漏れなく非可動措置をとるように指導する

(3) 狭隘部、ピット内などでの酸欠、有機溶剤等の有害物質による中毒災害の防止

- 1) 工事計画に際しては、現地諸状況を十分に考慮して抜けのないリスクアセスメントを実施し、リスク対策を漏れなく確実に実施する
- 2) 化学物質を使用する場合はSDSを入手しリスクアセスメントを行い、SDSの内容とリスクアセスメントの結果を作業員まで周知する
- 3) 作業実施の際には、計画したリスク対策が漏れなく実施されているか確認する

(4) 未熟練者・新規入場者・高齢者の作業に応じた適正配置の確認

- 1) 管理者は安全パトロールや現場巡視にて作業配置・作業状況を確認し、注意喚起や安全指導を率先垂範で行う
新規入場者・未熟練者・高齢者(65歳以上)に対しては、作業所全体で意識して頻繁に声掛け・問い掛けを実施する

2) 声掛けによる相互啓発活動を継続(箇所独自活動の活性化を促進)

- ① 職長は新規入場者・未熟練者を複数人作業に就け、常に同僚の目の届く範囲に配置する
- ② 職長は未熟練者に対するコーチャー役を選任して、現場でのケアに当たらせる
- ③ 作業所長、直・協 現場管理者は新規入場者・未熟練者・高齢者(65歳以上)の配置を確認する
- ④ 作業経験年数、実施する作業の経験の有無および作業指揮命令系統等を対話する(入口管理)

《3》安全保護具(ヘルメット、墜落制止用器具、防じん・防毒マスク、保護メガネ)の着用と点検

- (1) 作業内容に応じて適切な安全保護具を選定し使用させる。化学物質のリスクアセスメントを行い、その結果に基づく措置として労働者に保護具を使用させるときは、「保護具着用管理責任者」を選任する
- (2) 安全保護具の使用に際しては使用前点検を実施させる。墜落制止用器具については、日常点検に加えて、定期点検(半年以内に1回)を実施させる。消耗品(防じんマスクのフィルター、防毒マスクの吸収缶、等)は交換基準に従い交換させる
- (3) 安全保護具に損傷等の異常が認められる場合には交換する。ヘルメットは、外観に異常がなくても、一度でも衝撃を受けたものは交換する
※(交換の目安) ・ヘルメット: (ABS/PC/PE 製)3年、(FRP 製)5年
・墜落制止用器具: (ベルト)3年、(ランヤード)2年

《4》熱中症への感度向上と迅速な対処の徹底

熱中症発生リスクが高い作業を抽出し対策を講じる。発症時には症状が軽くとも楽観視は厳禁!

- (1) WBGT の掲示やポスター、啓発用品等で熱中症の危険に対する感度を高める
 - 1) 作業員全員に対し、熱中症予防教育を実施する
 - 2) 作業所毎に、早め・こまめの休憩時間の設定と、皆が気兼ねなく休憩できる環境を作り、積極的な水分・塩分の摂取を促す
 - 3) 継続した啓発、パトロールによる熱中症予防の意識付け
- (2) 熱中症は症状が軽くとも楽観視は厳禁! 適切な対応にて重篤化を防ぐ
発症時の迅速な救急車要請と応急処置の実施により重篤化を回避する

3. 安全・健康に強い人・組織づくり(安全衛生教育・訓練の実施)

- (1) 危険体感研修の実施 日時未定
※事前に保護具(安全帽・安全带)の正しい装着について習得しておくこと
- (2) (法定)職長・安全衛生責任者教育(第1回) 7月24日(水)~25日(木)
" (第2回) 8月28日(水)~29日(木)